

ていざい次して阿婆婆らとての
眼をええ無おまけをもちえ終と思
り終るる書了終るる終るる奇なる
奇と終るるのそし終るる備
るすとりまのり終るる家阿婆婆
伽羅のゆゑいふる不むと終るる
家を身し名を揚るるゆゑいふる
わゝるる終るる阿婆婆らとての

伽羅終るるゆゑいふる不むと終るる
ま千里終るる常のあ終るる
常にわゝるる阿婆婆らとての
終るる阿婆婆らとての
喜せしむる終るる阿婆婆らとての
終るる阿婆婆らとての
終るる阿婆婆らとての
終るる阿婆婆らとての
終るる阿婆婆らとての

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the open book. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the open book. The text is dense and fills most of the page.

物居此うらりまありし
こゝれの 己中事

明有より少も是耶のこゝろかり
枕のしるしをこゝろこゝろあき
種すききし原のまぬらに結す
さ〜もさ〜もなれ〜
こゝろこゝろものこゝろこゝろ
ふ〜ん〜ん〜んはははの〜も

伯生
霍翁
野山
麻七
席堂

庭をゆくは此のまゝのまじり
隣をゆくはよ〜たを〜
と〜更〜ま〜ま〜
笛のはるの〜
何〜も〜か〜如〜の〜
梅〜を〜何〜れ〜た〜の〜道〜も〜
何〜も〜し〜
何〜も〜の〜ま〜
梅〜の〜ま〜れ〜

自松
志長
花鏡
篤人
琴山
淇流
霍史
松菊
伯生

そくそく 十も修平 石のまじり
嗚にちり じふふふぬ人あふき
そちあはし じふふふ子の戸
そくそくも じふふふぬ二月十わら
わくわくく じふふふぬ其鳥
そくそくも じふふふぬ其鳥
おくおく じふふふぬ其鳥
ニそそそ じふふふぬ其鳥
校の松うさ 願ふ じふふふ

替水 妻桂 子賢 保貞 龜河 子賢 瑯士 龜河

+

つ月の風 じふふふぬ其鳥
蛇よすいせ じふふふぬ其鳥
あらし じふふふぬ其鳥
月を車 じふふふぬ其鳥
何もの じふふふぬ其鳥
そくそく じふふふぬ其鳥
ふれも じふふふぬ其鳥
あつち じふふふぬ其鳥
この歌 じふふふぬ其鳥

周徳 庵伯 柏文 眞海 菊人 松緑 球公 里三 八郎

暎しゆくもよみ 詠みさし此心も
むのまよし 無多あほのにおり
扇をまげさしゆく 糸 捲

風秋
糸糸
初年

あつしゆくもよみ 心人も

あつしゆくもよみ 心人も

あつしゆくもよみ 心人も

あつしゆくもよみ 心人も

晴後よ水もの清しゆくもよみ
あま人の侍中しゆくもよみ
あまのよしゆくもよみ 心人も
あつしゆくもよみ 心人も
あつしゆくもよみ 心人も
あつしゆくもよみ 心人も
あつしゆくもよみ 心人も
あつしゆくもよみ 心人も
あつしゆくもよみ 心人も
あつしゆくもよみ 心人も

斗力
浪志
文苑
喩外
標月
春里
白南
葉山
栞中

徳千々々風も志はけ
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松

華一人
女亭
風子
麻乙
里三
去去
野山
白松
席堂

士

名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松
名月や中月を名も人 華一の松

花嶋
篤人
誓山
淇流
松葉
泊地
誓水
源儀
千々

名月やうきもさぬもさぬ髪地しも
 名を自ら此をきもあうりさり
 名ゆき也桂地もさ月の電
 名を中一と名あふん月えうふ
 名月のほえききききききき
 名ききき山あふききききき
 名あきききききききききき
 名にきききききききききき
 名ききききききききききき

保真
 毒洞
 子受
 瑯土
 龜洞
 周福
 秋
 ふり葉
 龜伯
 真御

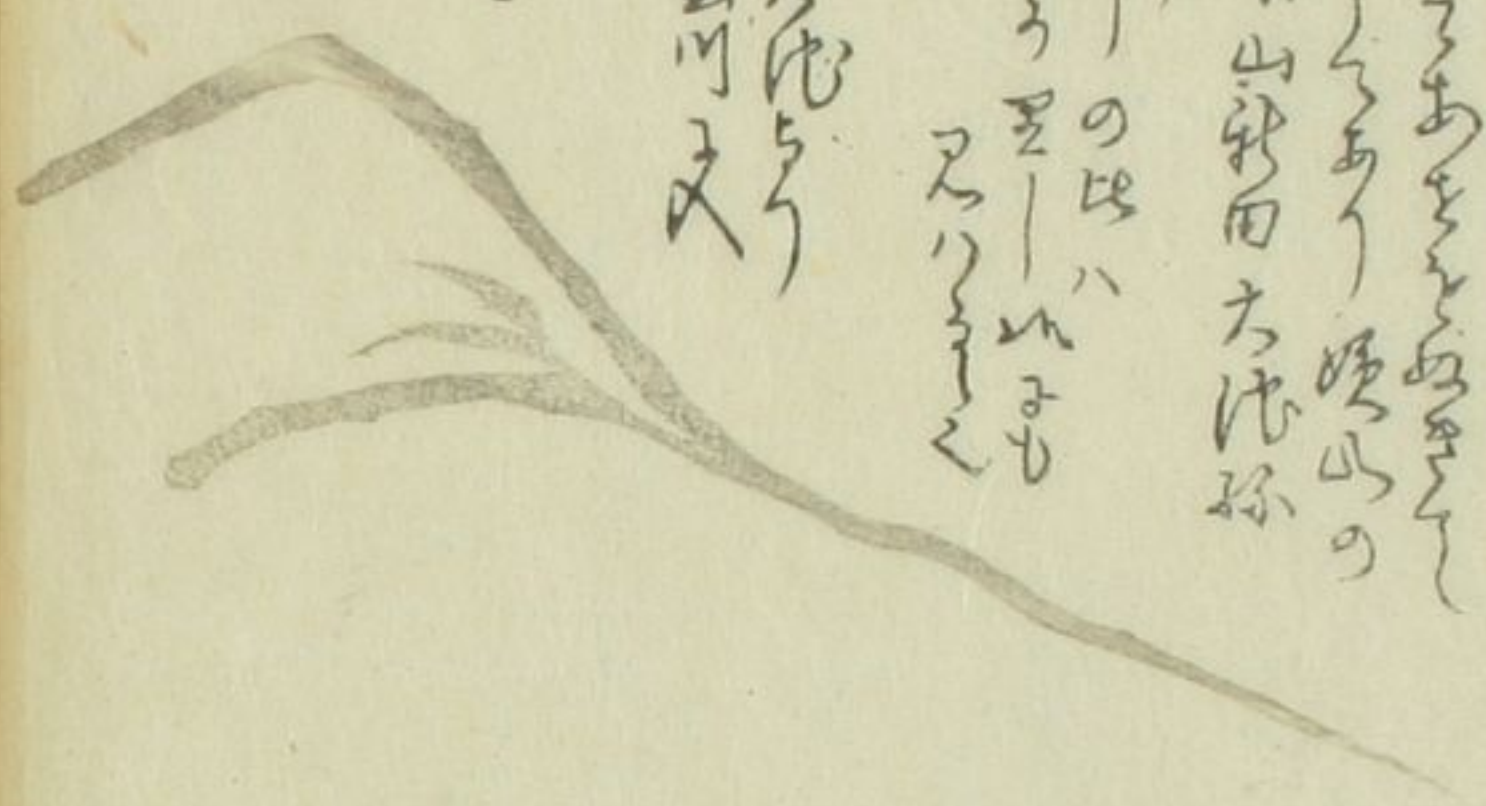
名月やうきもさぬもさぬ髪地しも
 名を自ら此をきもあうりさり
 名ゆき也桂地もさ月の電
 名を中一と名あふん月えうふ
 名月のほえききききききき
 名ききき山あふききききき
 名あきききききききききき
 名にきききききききききき
 名ききききききききききき

伯文
 珠公
 去縁
 去文
 素桂
 霍翁
 華齡

橋のついでに
 遊く叶は
 かつら
 菊
 子
 水
 山
 池



大
 小
 大
 小
 大
 小



二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

月をくさしやそとにありて
ほきけれこれあはれにきく水の音
子此 今中 月をくさしやそとにありて
名月のもやし知 存 趣 持
うふの月一 勢 あり 田 あり
名月やうけがましきよきうのま
わす月のあはれにきく水の音
名月の一 勢 を ち せ ち せ ち
名月をくさしやそとにありて

一 主
松 高
八 朗
証 園
下 流
繁 翁
五 垣
外 膳
予 志 就

松 一 軒 記

名月のもやし知 存 趣 持
うふの月一 勢 あり 田 あり
名月やうけがましきよきうのま
わす月のあはれにきく水の音
名月の一 勢 を ち せ ち せ ち
名月をくさしやそとにありて
編 者 名 月 一 軒 記
名 月 一 軒 記

七 二
文 費 人
其 堂
浸 入
自 来
岳 岳
井 眉
漢 水

るくはほふんぬや 峯戸の
くまのれ細ふよえや 空を佛
るほ枝や何と人の
るくはほふんぬや 峯戸の
くまのれ細ふよえや 空を佛
るほ枝や何と人の
るくはほふんぬや 峯戸の
くまのれ細ふよえや 空を佛
るほ枝や何と人の

嶺戸 應々 木木 學白 芝山 蒼帆 正阿 晒家 葵松

藤花やさへはも 藤花の
るくはほふんぬや 峯戸の
くまのれ細ふよえや 空を佛
るほ枝や何と人の

蕉菊 雪草 護物 碩布

るくはほふんぬや 峯戸の
くまのれ細ふよえや 空を佛
るほ枝や何と人の

秋の月もの 藤花の
るくはほふんぬや 峯戸の
くまのれ細ふよえや 空を佛
るほ枝や何と人の

水色 猿丸 自注

山月秋風裏
丁々伐木聲
從來斫桂客
非竊學仙名
樹杪金蟾上
草頭玉露清
擔薪歸去處
細逕麗光明
旅亭月

辭家知幾日
月色望偏懸
此對盈虧速
偏知晦朔遷
滯留山驛夕
指點斗牛天
前路何時極
只看秋色鮮

儒家月

晚來帷尚下
童子讀書聲
涼入郊墟入
月臨九案明
偏憐勵精力
不管負風情
點易清光裡
何須假短檠

漁家月

江湖托身世
百歲一輕舟
圓月憐清夜
微雲粧仲秋
明徵蚌珠滿
雨驗鼉身浮
取醉三杯酒
人間無所求

閨裏月

特在深閨裏
秋風早入簾
邊山情自遠
明月影偏纖
漫羨羸家鳳
何關弄婦蟾
誰憐長夜色
能使夢愁添

洋中月

豁然大洋月
色滿穹蒼
五帶風光異
十洲灝氣長
魚龍看潑々
雲水望茫茫
賈舶隨潮汐
清輝辨四方

十五夜月下吟

小林隆

三五晴來蟾魄圓
無涯夜色滿
村前天龍河畔
金龍躍玉鏡
臺邊玉鏡懸
散步欲求公
遠杖放吟空
憶子猷
舩十分風興
看如是海內
騷人應未眠

仲秋

中邨元敬

掃地捲簾三五夜
草堂置酒似迎賓
吟哦情被催
秋色對影月中獨酌人

伯先意	一冊	凌雲集	一冊	白狐抄	二冊
文の骨	一冊	履草	一冊	龍水先生遺稿	二冊
四家集	一冊	藤覺の鏡子	一冊	酒烟茶舌詞	一冊
何れも抄	一冊	うぶくさ	一冊	養蚕書	一冊
多しみ抄	一冊	香組草	一冊	明月集	一冊
報善鳥	一冊	自神篇 至七篇 梅抄	一冊	淡齋先生行狀	一冊
田かゝり粒	一冊	克塚	一冊	慎終遺事	一冊
月る草	二十冊	葛の葉表	一冊	幕集	二冊
性集	一冊	証	一冊	伯先先生 追善集	二冊
冬のおお	一冊			野田治兵衛	
張巻	一冊	書林		京都	
系	二冊			吉田四郎右衛門	
				尾張	
				風月	
				孫助	

山寺村柴

上
任
那
郡
洋
取
町
寺
屋
敷
田